

ドライブシミュレータ評価前の 慣らし運転についての検討

桔梗ヶ原病院 リハビリテーション部
松塚翔司, 佐藤理恵, 園原和樹

背景と目的

- 当院では,2018年よりHONDAセーフティナビ(以下,DS)を用いた運転支援を行っている.DSを用いた運転適性の評価を行う際に,DSの施行回数により評価結果が異なることを経験し,背景に機器操作の不慣れさや実際の車と運転感覚が異なることがあるものと考えた.
- 運転適性の評価に際し,DSによる慣らし運転(評価前の練習)を何回行うことが望ましいかについて検討したため,報告する.

方法

- 対象者
過去にDSを実施したことがない健常者20名(男性14名,女性6名,平均年齢 29.4 ± 4.1)を対象とした.
- 対象者にDSの運転反応検査(単純反応検査,選択反応検査,ハンドル操作検査,注意配分・複数作業検査)を1週間の中に4回実施.得られた評価結果(5段階評価:A~E)について全項目と下位項目に分けて検討し,下位項目について施行回数による変化(1~2回目,2~3回目,3~4回目)を算出した.

運転反応検査の項目

単純反応検査

- ①反応速度の速さ②反応動作のムラ



ハンドル操作検査

- ①反応速度の速さ②反応動作のムラ
- ③左右のバランス



選択反応検査

- ①反応速度の速さ②反応動作のムラ
- ③誤反応④判断の速さ

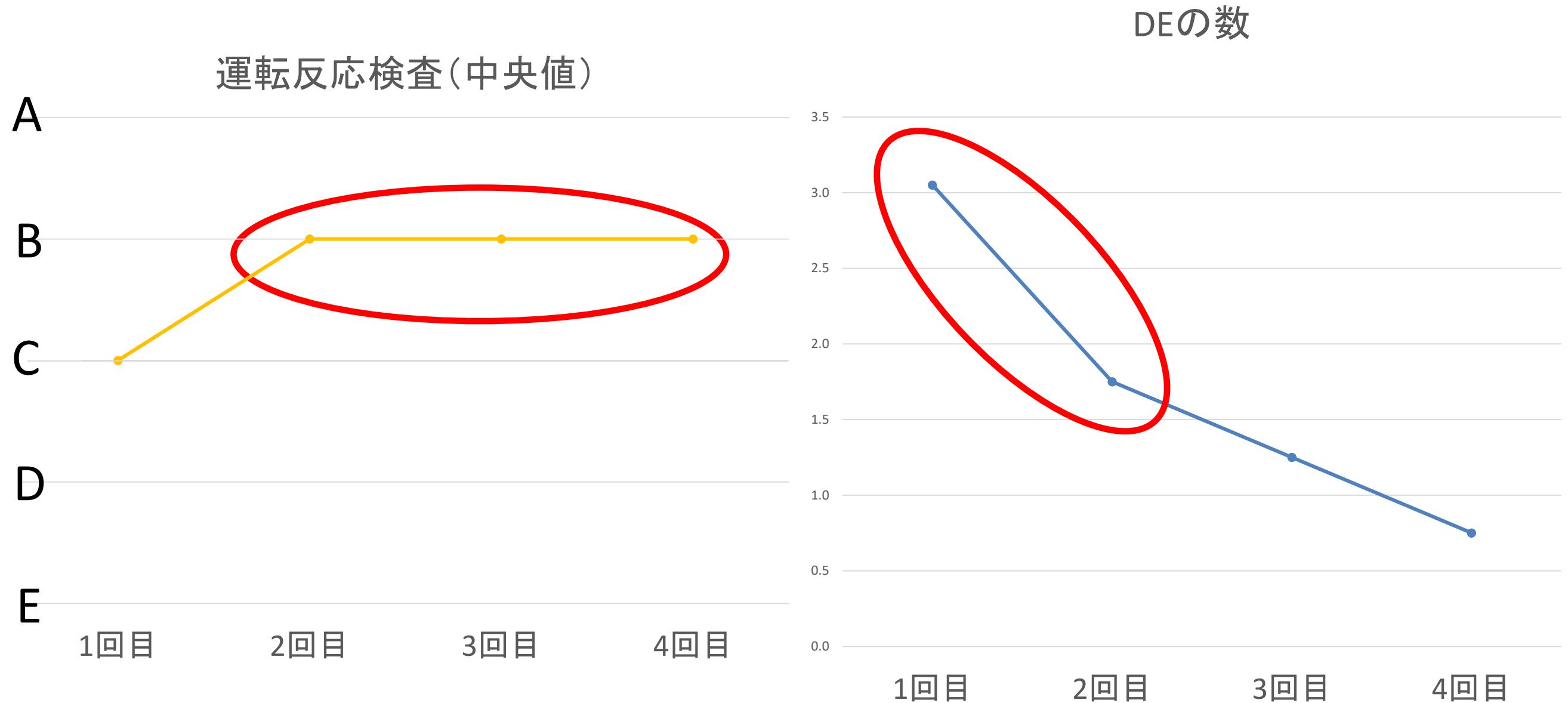


注意配分・複数作業検査

- ①反応速度の速さ②反応動作のムラ
- ③誤反応



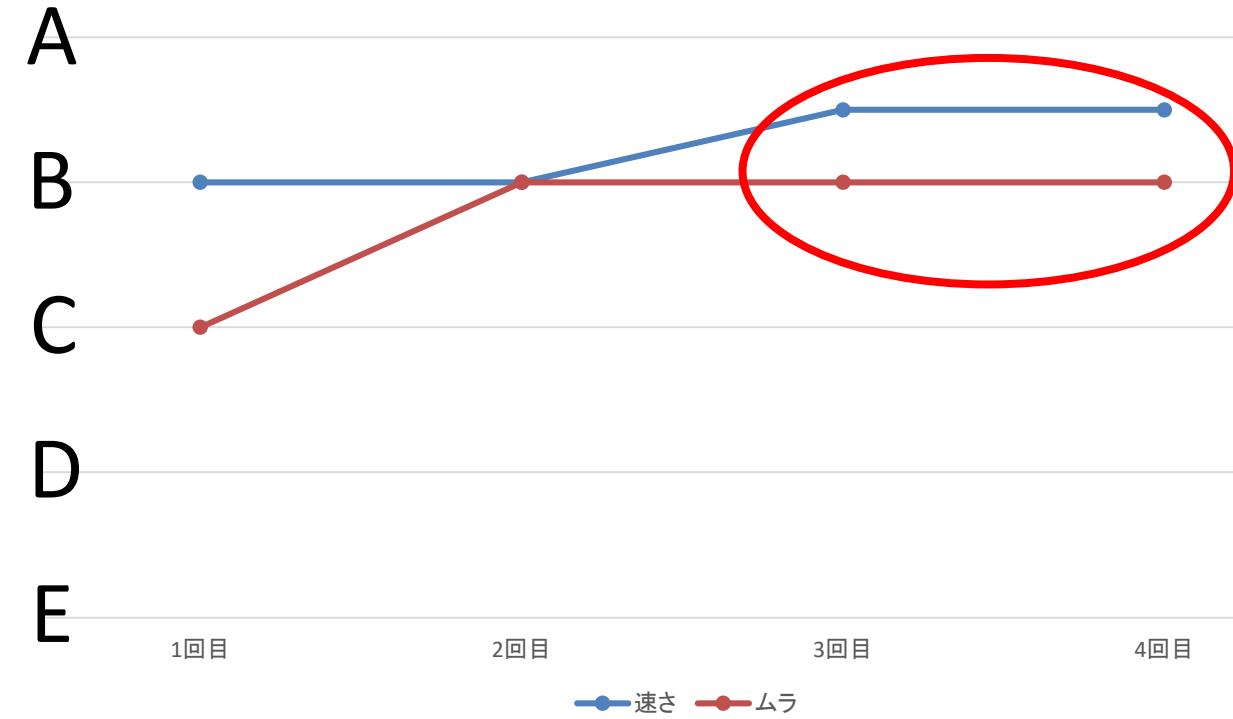
結果①全体



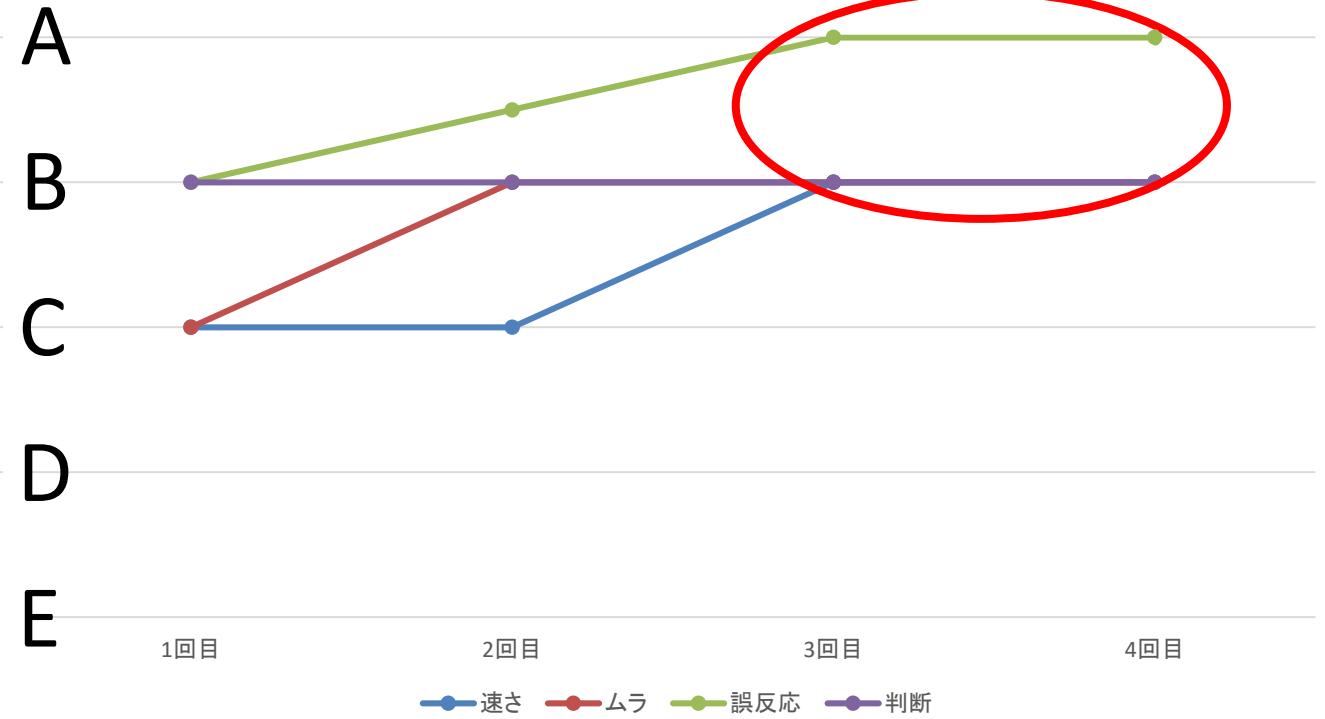
2回目以降は大きな変化を認めなかった。
DE数は,1~2回目でDE数の減少が顕著であった。

結果②下位項目

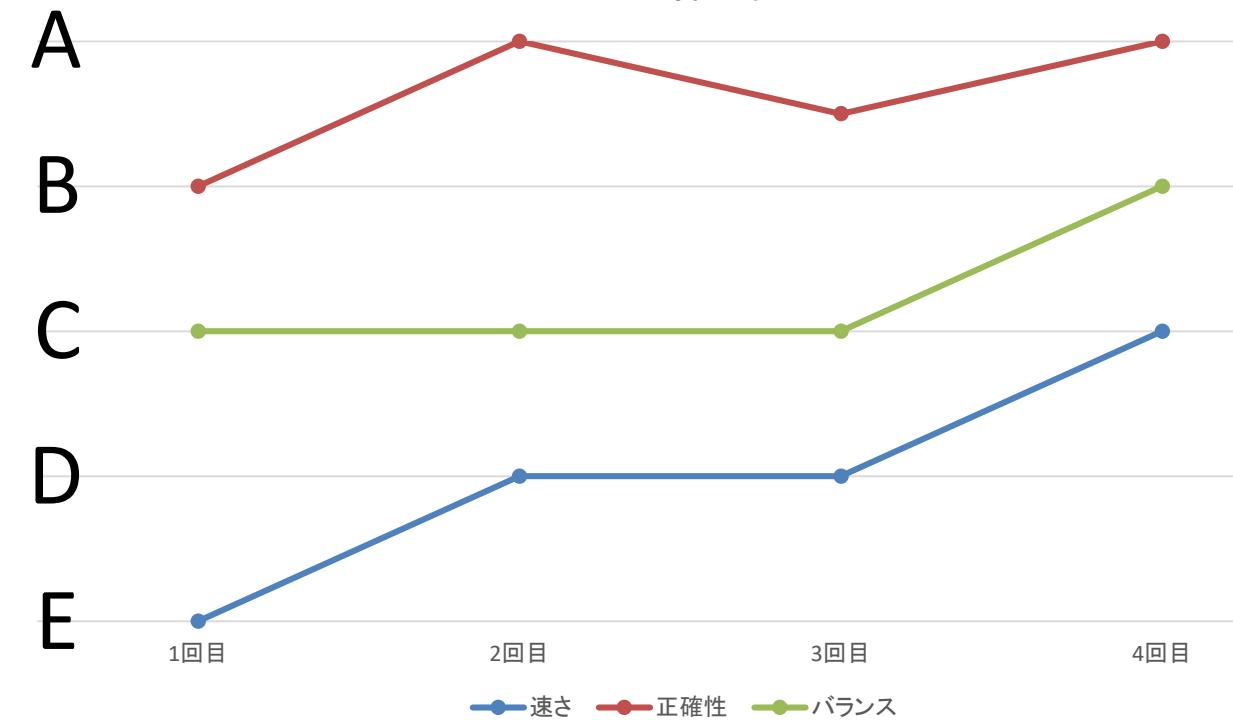
単純反応検査



選択反応検査



ハンドル操作検査



注意配分・複数作業検査



ハンドル操作検査を除いて、3~4回目において中央値の改善を認めなかった。

結果③ 下位項目の変化

DS回数による変化(項目数)

2回目	8
3回目	5
4回目	3

結語

運転反応検査において1～2回目の間で9項目の改善があり、慣らし運転として1回施行が望ましいものと考えた。